

2021年10月8日

各位

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社



## 株式会社 INPEX が発行するグリーンボンドの引受けについて

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社(取締役社長 荒木 三郎、以下当社)は、このたび、株式会社 INPEX が発行するグリーンボンド<sup>(1)</sup>(10年債 100億円、以下本社債)の引受けにおいて共同主幹事を務め、本日、本社債の条件が決定されましたことをお知らせします。

株式会社INPEXは、昨年来のコロナ禍を契機とする世界経済の動揺と気候変動対応に係る大きな事業環境の変化に鑑み、今般、2050年のネットゼロカーボン社会を展望した長期的な経営の方針を策定しております。具体的には、2050年自社排出ネットゼロカーボン等を目指す気候変動対応目標を定めるとともに、今まで培ってきた石油・天然ガス開発における技術・リソース・人材を最大限活用し、①上流事業のCO2低減、②水素事業の展開、③再生可能エネルギーの取り組み強化と重点化、④カーボンリサイクルの推進と新分野事業の開拓、⑤森林保全によるCO2吸収の推進、の5つの分野に積極的に取り組み、2050年に向けて十分な収益力のある事業へと拡大させていきます。

本社債は、適格性と透明性の確保および投資家への訴求力向上のため、第三者評価機関である DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社、ならびに株式会社格付投資情報センター(以下 R&I)からグリーンボンド発行に係る各種基準への適格性についての検証、もしくは評価を受けております。また、R&I による「R&I グリーンボンドアセスメント」の最上位評価である「GA1」の本評価を取得しています。加えて、CBI(Climate Bonds Initiative:グリーンボンドの信頼性や透明性を確保するための厳格な基準を定める国際 NGO)による認証<sup>(2)</sup>も取得しています。

2006年に国連責任投資原則(PRI: Principles for Responsible Investment)が制定されて以来、世界の ESG 投資が拡大していることを受けて、資金使途を環境対策事業とするグリーンボンドや社会貢献事業とするソーシャルボンド、両方の特性を有するサステナビリティボンド等の発行は増加傾向にあります。引き続き、当社は、企業・経済の成長と社会・環境との両立の観点から、ESGをテーマとした債券の引受けを一層推進するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

(本社債の概要)

債	券	名	： 株式会社 INPEX 第 3 回無担保社債(社債間限定同等特約付)(グリーンボンド)	
取	得	格	付	： AA-(R&I)
年		限	： 10 年(2031 年 10 月 15 日償還)	
発	行	額	： 100 億円	
利		率	： 0.250%	
払	込	期	日	： 2021 年 10 月 15 日
主	幹	事	： SMBC 日興証券株式会社 みずほ証券株式会社 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社	

- (1) グリーンボンドとは、国際資本市場協会 (International Capital Market Association: ICMA) が定義する「グリーンボンド」の特性に従ったものであり、環境事業に要する資金を調達するために発行する債券です
- (2) CBI 認証(気候ボンド認証)とは、第三者評価機関により気候ボンド基準への適合性の検証を受けた債券に対し CBI により付与されるものです。「気候ボンド基準」とは、CBI が当該債券について、パリ協定における 2°C 目標と一致していることを、厳格な科学的基準に基づいて保証する基準です

※SDGs 債ロゴについて

日本証券業協会によると、調達資金が SDGs に貢献する事業に充当される債券、いわゆる「SDGs 債」には、SDGs の中でも環境・社会へのポジティブなインパクトを有し、一般的にスタンダードとして認められている原則(例えば、国際資本市場協会(ICMA)によるグリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則、サステナビリティボンド・ガイドラインなどを指します。)に沿った債券や、事業全体が SDGs に貢献すると考えられる機関が発行し、インパクト(改善効果)に関する情報開示が適切になされている債券が含まれます。当該ロゴは、前述の条件に適合する債券等に対し、使用を認められているものです。

以 上